

# 事務事業評価表

## 1. 基本事項

作成日 令和04年06月17日(金)

事務事業		常備消防車両整備管理事業			担当課	警防課	担当係	警防企画係	管理番号	4515	
総合計画	大項目	4	安心とやすらぎを感じられるまち			事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務				
	中項目	1	備えができて安全・安心なまちづくり			根拠法令 個別計画等	NOx・PM法 埼玉県生活環境保全条例				
	小項目	2	消防・救急体制の充実								
	主要プロジェクト	0	(未使用)								
事業概要		近年複雑多様化する災害に対応するため、老朽車両を順次、最新の消防特殊車両へ更新することにより、火災等の災害に対応できる体制を整備するものである。また、災害時の安全性を確保するため、現在保有している常備消防車両の維持管理及び車検整備や定期点検を行い、故障原因を除去し、常時運行可能な状態を維持するものである。									
目的 ※何のために		複雑多様化する災害に対応し、災害時被害の軽減をするとともに安全性を確保するため。									
対象 ※誰・何を対象に		常備消防車両。									
手段 ※どのように		最新の消防特殊車両への更新、維持管理及び車検整備する。 ※車両年次整備計画を改正し、車両運行状況や社会情勢を見極め車両更新を実施する。									
成果 ※何を求めるか		火災等の災害に常時対応できる体制を整備し、消防車両を常時運行可能な状態に維持する。									
執行体制		<input checked="" type="checkbox"/> 職員 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 市民ボランティア <input type="checkbox"/> NP0等 <input type="checkbox"/> その他( )									
事務事業を構成する 予算事業		区分	款		項		目		細事業名		前年度決算額(円)
		一般会計	9	消防費	1	消防費	3	消防施設費	常備消防車両購入事業		99,000,620
		一般会計	9	消防費	1	消防費	3	消防施設費	常備消防車両維持管理事業		21,339,692
本事業の 主な業務		・常備消防車両等の更新							・		
		・常備消防車両の維持管理							・		
		・車検整備							・		
		・消耗品の購入							・		
		・梯子車保守点検							・		
		・							・		

## 2. 事業費(投入コスト)

単位: 円

区分		平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
年度別計画		深谷1、岡部1号車更新 救急藤沢1号車更新 花園2号車更新	藤沢1号車更新 救急豊里1号車更新	救急寄居1号車更新	深谷救助1号車	多目的消防自動車	上柴1号車、救急花園1号車
事業費	予算(現額)	168,422,000	103,826,000	53,146,000	199,663,000	121,755,000	157,712,000
	決算額	167,038,260	102,670,909	51,646,423	198,601,354	120,340,312	0
	財源内訳	国支出金	0	0	51,641,000	0	16,442,000
		県支出金	0	0	6,478	1,334,000	0
		地方債	144,300,000	78,900,000	31,300,000	52,600,000	78,100,000
		他特定財源	6,694,000	6,776,000	6,587,000	8,221,000	28,130,000
		一般財源	16,044,260	16,994,909	13,752,945	86,139,354	90,876,312
人件費	従事職員数(人)	0.95	0.95	0.75	0.95	0.75	0.75
	人件費相当試算※	7,390,050	7,392,900	5,895,750	7,729,200	5,821,437	6,098,511
総事業費試算		174,428,310	110,063,809	57,542,173	206,330,554	126,161,749	163,810,511

※ 人件費相当額試算は、従事職員数に平均人件費を用いて試算したものです。

3. 評価指標

区分	指標名		目標値	単位	平成 29年度	平成 30年度	平成 31年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度
			実績値							
	目標値の算定根拠/実績値の出所									
活動指標 1	実績値の算出式									
	車両更新率	目標値	%	100	100	100	100	100	100	100
		実績値		100	100	100	100	100	100	0
	目標値の算定根拠/実績値の出所		車両年次整備計画に基づき目標値を設定/更新台数/更新予定台数							
活動指標 2	実績値の算出式			4 / 4	2 / 2	1 / 1	1 / 1	1 / 1		
	維持管理した常備消防車両台数	目標値	台	52	51	51	51	51	51	49
		実績値		52	51	51	51	51	51	0
	目標値の算定根拠/実績値の出所		全常備消防車両を維持管理するため、常備消防車両数が目標値 / 常備消防車両の保有台数							
成果指標 1	実績値の算出式									
	火災等の災害対応率	目標値	%	100	100	100	100	100	100	100
		実績値		100	100	100	100	100	100	0
	目標値の算定根拠/実績値の出所		火災等の災害に対し、対応することは消防の責務であるため、目標値は100% / 災害対応数/災害数							
成果指標 2	実績値の算出式									
	車両トラブルにより災害に出動できなかった回数	目標値	回	0	0	0	0	0	0	0
		実績値		0	0	0	0	0	0	0
	目標値の算定根拠/実績値の出所		各種災害へ出動し、対応することが責務のため、目標値は0 / 災害への出動不能回数							
成果指標 3	実績値の算出式									
	1台あたりに係る車両の管理経費	目標値	千円							
		実績値		3354.39	2158.11	1128.28	4045.69	2473.75		
	目標値の算定根拠/実績値の出所		法定点検車両台数の増減により、管理経費が変化するため、目標値が設定できない。 / 総事業費/常備車両台数							
	実績値の算出式									
		目標値								
		実績値								
	目標値の算定根拠/実績値の出所									
	実績値の算出式									
		目標値								
		実績値								
	目標値の算定根拠/実績値の出所									

4. 観点別評価

観点別評価は、指標達成の有無の他、その達成率も勘案して総合的に評価します。  
目標値の設定がないものについても、進捗状況等を踏まえA～Cの三段階にて評価します。  
事業達成度評価は、意図した活動により事業目的に適う成果がでているかを評価します。  
(評価基準) (A:達成している B:おおむね達成している C:達成していない)

(1) 事業達成度評価

区分	評価の観点	評価	評価理由・指標数値の推移
活動	・活動実績は、見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか。	A	車両年次整備計画に基づき計画的に消防車両を更新した。また、法令に基づき車検整備、定期点検の実施、車両不具合や故障箇所の修繕は随時適正に実施した。
成果	・意図した成果が上がっているか。 ・指標未達成の場合は、その原因を分析できているか。	A	各種災害から市民の生命、身体、財産を保護するために、消防車両を常時運行可能な状態に維持した。これにより、迅速かつ円滑な災害活動を実施した。
			評価者 課長補佐兼警防企画係長 坂本 浩

(2) 事業効率性評価

事業効率性評価は、執行体制や手段など効率的に事務事業を執行しているかを評価します。  
(評価基準) (A:効率的である B:高める余地あり C:効率的でない)

区分	評価の観点	評価	評価理由
効率性	・ICTの活用や業務改善が充分か。 ※検証必須 ・コスト面など効率的に執行できているか。 ・民間委託や他事業との統合・連携が可能か。	A	車両年次整備計画に基づき計画的で効率的な消防車両の更新を実施した。また、車検その他法定点検等は計画に基づき適切に執行したことで、有効な運用を常時可能とした。
			評価者 課長補佐兼警防企画係長 坂本 浩

5. 前年度改善改革プラン達成状況

令和2年度の評価を受けて 設定した改善・改革案	複雑多様化する災害に的確に対応するため、老朽化した車両は車両年次整備計画に基づき最新の消防車両へ更新する。また、複合用途車両の導入による車両管理台数の削減、車両延長運用等の各種方等についても随時検討し、保有している消防車両を適正に維持管理する。
達成状況及び その効果	車両更新は複合用途化を図り最新の消防車両に更新したことで、車両維持管理台数の削減が図れた。

6. 所属長評価（今後の方向性）

事務事業	常備消防車両整備管理事業	担当課	警防課	担当係	警防企画係	管理番号	4515
<div>■ ①拡充, 重点化(コスト投入)</div> <div><input type="checkbox"/> ②現状のまま継続</div> <div><input type="checkbox"/> ③見直して継続</div> <div><input type="checkbox"/> ④目的達成による終了</div> <div><input type="checkbox"/> ⑤廃止を検討</div> <div><input type="checkbox"/> 委託化等の検討</div> <div><input type="checkbox"/> 成果向上のための改善</div> <div><input type="checkbox"/> 効率化のための改善</div> <div><input type="checkbox"/> 事業規模の縮小</div> <div><input type="checkbox"/> 他の事務事業と統合</div>		評価の内容説明					
		各種災害が発生した時に対応する消防車両が故障等により機能しなければ市民生活に甚大な影響を与え、安全安心に暮らせる街づくりが保証されないため、老朽化が著しい消防車両の更新と維持管理の徹底を図る。 なお、車両更新を行うにあたっては、今後の人口減少社会や急速な高齢化の進展などを踏まえた持続可能な消防体制の構築に資するため、更なる複合用途車両の導入と車両保有台数適正化について推進していく必要がある。					
上記を実施するための具体的な取組内容は？		評価者	次長兼警防課長 高野政之				

7. 改善改革プラン・今後の課題

令和4年度に実施する 改善・改革案 (事業目的・各指標の達成に必要な改善、業務の効率化を図るための改善)	財政状況等を鑑み突出した財政負担とならないよう車両年次整備計画を定めているが、車両の使用目的、地域特性を考慮した車両の選定として、複合用途車両の導入も検討する。車両価格の高騰が顕著であることから、車両更新に伴う予算の確保について、今後の社会情勢の変化を見据え積算する。
令和5年度以降に取り組む 改善・改革案・今後の課題 (事業目的・各指標の達成に必要な改善、業務の効率化を図るための改善)	地域特性に応じた新たな複合用途車両の導入を行う。また、複数台保有している同用途車両の機能集約を図るとともに、常備車両の稼働状況等を踏まえた保有台数の適正化を推進していく。 さらに、車両保有台数適正化を図るため車両維持管理の徹底を図る。

8. 評価指標グラフ

